令和8年度

# 高等学校推薦入学試験問題

## 国　語

受験上の注意

◎ 時間……45分

◎ 解答はすべて，別紙解答欄に記入すること。

◎ 字数制限のある場合，句読点，カギなどの記号も字数に入れるものとする。

**第一問題　次の文章は、織田作之助の小説「木の都」（一九四四年）の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。**

その頃、私は注1高津宮跡にある中学校の生徒であった。しかし、中学校を卒業して注2京都の高等学校へはいると、もう私の青春はこの町から吉田へ移ってしまった。少年の私を楽ませてくれた駒ヶ池の夜店や榎の夜店なども、たまに帰省した高校生の眼には、もはや十年一日の古障子の如きけちな風景でしかなかった。やがて私は高等学校在学中に両親を失い、ひいては無人になった家を畳んでしまうと、もうこの町とは殆ど没交渉になってしまった。［A］の境遇は、転々とした放浪めく生活に馴れやすく、故郷の町は私の頭から去ってしまった。その後私はいくつかの作品でこの町を描いたけれども、しかしそれは著しく架空の匂いを帯びていて、現実の町を描いたとはいえなかった。その町を架空に描きながら現実のその町を訪れてみようという気も、注3物ぐさの私には起らなかった。

ところが、去年の初春、本籍地の区役所へ出掛けねばならぬ用向きが生じた。区役所へ行くには、その町を通らねばならない。十年振りにその町を訪れる機会が来たわけだと、私は多少の感懐を持った。そして、どの坂を登ってその町へ行こうかと、ふと思案したが、足は自然に口縄坂へ向いた。しかし、夕陽丘注4女学校はどこへ移転してしまったのか、校門には「青年塾堂」という看板が掛っていた。かつて中学生の私はこの禁断の校門を一度だけくぐったことがある。当時夕陽丘女学校は注5籠球部を創設したというので、私の中学校に指導選手の派遣を依頼して来た。昔らしい呑気な話である。私の中学校は籠球にかけてはその頃の中等野球界の和歌山中学のような地位を占めていたのである。私はちょうど籠球部へ籍を入れて四日目だったが、指導選手のあとにのこのこ随いて行って、夕陽丘の校門をくぐったのである。ところが指導を受ける生徒の中に偶然水原という、私は知っているが向うは知らぬ美しい少女がいたので、私はうろたえた。水原は指導選手と称する私が指導を受ける少女たちよりも下手な投球ぶりをするのを見て、何と思ったか、私は知らぬ。①それきり私は籠球部をよし、再びその校門をくぐることもなかった。そのことを想いだしながら、私は坂を登った。

登り詰めたところは注6露地である。露地を突き抜けて、南へ折れると四天王寺、北へ折れると生国魂神社、神社と仏閣を結ぶこの往来にはさすがに伝統の匂いが黴のように漂うて、仏師の店の「作家」とのみ書いた浮彫の看板も注7依怙地なまでにここで

は似合い、不思議に移り変りの注8 尠い町であることが、十年振りの私の眼にもうなずけた。北へ折れてガタロ横丁の方へ行く注9 片影の途上、寺も家も木も昔のままにそこにあり、町の容子がすこしも昔と変っていないのを私は喜んだが、しかし家の軒が一斉に低くなっているように思われて、ふと架空の町を歩いているような気もした。しかしこれは、［B］。

下駄屋の隣に薬屋があった。薬屋の隣に風呂屋があった。風呂屋の隣に床屋があった。床屋の隣に仏壇屋があった。仏壇屋の隣に桶屋があった。桶屋の隣に標札屋があった。標札屋の隣に……（と見て行って、私はおやと思った）本屋はもうなかったのである。

善書堂という本屋であった。「少年倶楽部」や「蟻の塔」を愛読し、熱心なその投書家であった私は、それらの雑誌の発売日が近づくと、私の応募した笑話が活字になっているかどうかをたしかめるために、②日に二度もその本屋へ足を運んだものである。善書堂は古本や貸本も扱っていて、注10 立川文庫もあった。注11 尋常六年生の私が国木田独歩の「正直者」や森田草平の「煤煙」や有島武郎の「カインの末裔」などを読み耽って、危く中学校へ入り損ねたのも、ここの書棚を漁ったせいであった。

その善書堂が今はもうなくなっているのである。主人は鼻の大きな人であった。古本を売る時の私は、その鼻の大きさが随分気になったものだと想い出しながら、今は、「矢野名曲堂」という看板の掛っているかつての善書堂の軒先に佇んでいると、隣の標札屋の老人が、三十年一日の如く標札を書いていた手をやめて、じろりとこちらを見た。そのイボの多い顔に見覚えがある。私は挨拶しようと思って近寄って行ったが、その老人は私に気づかず、そして何思ったか眼鏡を外すと、すっと奥へひっこんでしまった。私はすかされた想いをもて余し、ふと矢野名曲堂へはいって見ようと思った。区役所へ出頭する時刻には、まだ少し間があった。

店の中は薄暗かった。白昼の往来の明るさからいきなり変ったその暗さに私はまごついて、注12 覚束ない視線を泳がせたが、壁に掛った注13 ベートベンのデスマスクと船の浮袋だけはどちらも白いだけにすぐそれと判った。古い名曲レコードの売買や交換を専門にやっているらしい店の壁に船の浮袋はおかしいと思ったが、それよりも私はやがて出て来た主人の顔に注意した。はじめはっきり見えなかったが、だんだんに視力が注14 恢復して来ると、おや、どこかで見た顔だと思った。しかし、どこで見たかは思い出せなかった。鼻はそんなに大きくなく、勿論もとの善書堂の主人ではなかった。その代り、唇が分厚く大きくて、その唇を金

魚のようにパクパクさせてものをいう癖があるのを見て、注15徳川夢声に似ているとふと思ったが、しかし、どこかの銭湯の注16番台で見たことがあるようにも思われた。年は五十を過ぎているらしく、いずれにしても、名曲堂などという注17ハイカラな商売にふさわしい主人には見えなかった。そういえば、だいいち店そのものもその町にふさわしくない。もっとも区役所へ行く途中、故郷の白昼の町でしんねりむっつり音楽を聴くというのも何かチグハグであろう。しかし、私はその主人に向って、いきなり善書堂のことや町のことを話しかける気もべつだん起らなかったので、黙って何枚かのレコードを聴いた。かつて少年倶楽部から笑話の景品に二十四穴の注18ハモニカを貰い、それが機縁となって中学校へはいるとラムネ倶楽部というハモニカ研究会に籍を置いて、大いに音楽に③傾倒したことなど想い出しながら、聴き終ると、咽喉が乾いたので私は水を所望し、はい只今と主人がひっこんだ隙に、注19懐中から財布をとりだしてひそかに中を覗いた。主人はすぐ出て来て、コップを置く前に、素早く台の上を拭いた。

何枚かのレコードを注20購つて出ようとすると、雨であった。C だから直ぐやむだろうと暫らく待っていたが、なかなかやみそうになく、本降りになった。主人は私が腕時計を覗いたのを見て、お急ぎでしたら、と傘を貸してくれた。区役所からの帰り、市電に乗ろうとした拍子に、④畳んだ傘の矢野という印が眼に止まり、ああ、あの矢野だったかと、私ははじめて想いだした。

京都の学生街の吉田に矢野精養軒という洋食屋があった。かつてそこの主人が、いま私が傘を借りて来た名曲堂の主人と同じ人であることを想いだしたのである。もう十年も前のこと故、どこかで見た顔だと思いながらにわかに想い出せなかったのであろうが、想い出して見ると、いろんな細かいことも記憶に残っていた。以前から私は財布の中にいくらはいっているか知らずに飲食したり買物したりして、勘定が足りずに赤面することがしばしばあったが、矢野精養軒の主人はそんな時⑤気前よく、いつでもようござんすと貸してくれたものである。ポークソテーが店の自慢になっていたが、ほかの料理もみな美味く、ことに野菜は全部酢漬けで、セロリーはいつもただで食べさせてくれ、なお、毎月注21新譜のレコードを購入して聴かせていた。それが皆学生好みの洋楽の名曲レコードであったのも、今にして想えば奇しき縁ですねと、十日ほど経って傘を返しがてら行った時主人に話すと、ああ、あなたでしたか、道理で見たことのあるお方だと思っていましたが、しかし変られましたなと、主人はお世辞でなく気づいたようで、そして奇しき縁といえば、全くおかしいような話でしてねと、こんな話をした。

主人はもと船乗りで、子供の頃から欧州航路の船に雇われて、鑵炊きをしたり、食堂の皿洗いをしたりしたが、四十の歳に陸へ上って、京都の吉田で洋食屋をはじめた。が、コックの腕に自信があり過ぎて、良い材料を使って美味いものを安く学生さんに食べさせるということが商売気を離れた道楽みたいになってしまったから、儲けるということには無頓着で、結局月々損を重ねて行ったあげく、店はつぶれてしまった。すっかり整理したあとに残ったのは、学生さんに聴かせるためにと毎月費用を惜しまず購入して来たままに溜っていた莫大な数の名曲レコードで、これだけは手放すのが惜しいと、大阪へ引越す時に持って来たのが、とどのつまり今の名曲堂をはじめる動機になったのだという。そして、よりによってこんな注22辺鄙な町で商売をはじめたのは、売れる売れぬよりも、老舗代や家賃がやすかったというただそれだけの理由、人間も家賃の高いやすいを気にするようではもうお了いですなと、主人はふと⑥自嘲的な口調になって、わたしも洋食屋をやったりレコード店をやったり、随分永いこと少しも世の中の役に立たぬ無駄な苦労をして来ました。四十の歳に陸へ上ったのが間違いだったかも知れません、あんなものを飾って置いてもかえって後悔の種ですよと、壁に掛った船の浮袋を指して、しかしわたしもまだ五十三です、……まだまだと云っているところへ、只今とランドセルを背負った少年がはいって来て、新坊、挨拶せんかと主人が云った時には、もうこそこそと奥へ姿を消してしまっていた。どうも無口な奴でと、しかし主人はうれしそうに云い、こんど中学校を受けるのだが、父親に似ず無口だから口答試問が心配だと、急に声が低くなった。たしかお子さんは二人だったがと云うと、ああ、姉の方ですか、あの頃はあなたまだ新坊ぐらいでしたが、もうとっくに女学校を出て、今北浜の会社へ勤めていますと、主人の声はまた大きくなった。

（織田作之助「木の都」『織田作之助全集5』より）

注1　高津宮跡にある中学校　…大阪府立高津中学校。現在の大阪府立高津高等学校。
注2　京都の高等学校　…第三高等学校。現在の京都大学大学院人間・環境学研究科及び総合人間学部。
注3　物ぐさ　…何かするのを面倒がってなまけがちな人。
注4　女学校　…当時の日本における女子に教育を施すための学校。
注5　籠球　…バスケットボールのこと。

注6　露地　…屋根などの覆いがなく、雨や露がじかに当たる地面。大通りから一歩入った裏道。

注7　依怙地　…「意固地」と同じ意味。

注8　尠い　…「少ない」と同じ意味。

注9　片影　…ある物のわずかに認められた姿。

注10　立川文庫　…明治末年から大正にかけて、大阪の立川文明堂が出版した少年向きの文庫本。

注11　尋常六年生　…旧制の小学校における六年生。現在の小学校六年生と同じ年齢。

注12　覚束ない　…物事がはっきりしない状態。または、それに対する不安・不満の感情を表す語。

注13　ベートベン　…ベートーベンのこと。

注14　恢復　…「回復」と同じ意味。

注15　徳川夢声　…ラジオやテレビの司会者・漫談家・俳優・作家。持ち前のユーモアと博識で人々を楽しませた。

注16　番台　…風呂屋の入り口に高く作ってある見張り台。

注17　ハイカラ　…西洋風を気取ったり、流行を追ったりすること。

注18　ハモニカ　…小型の吹奏楽器。ハーモニカのこと。日本には明治中頃に伝わる。

注19　懐中　…ふところやポケットの中。

注20　購つて　…買い求めて。

注21　新譜　…新しく作られた楽譜。新曲を吹き込んだレコード。

注22　辺鄙　…都から離れた不便な土地。

**問一**　［A］に入る四字熟語として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　臨機応変　　イ　五里霧中　　ウ　天涯孤独　　エ　自業自得

**問二**　――線①「それきり私は籠球部をよし、再びその校門をくぐることもなかった」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　籠球部の一員として、「私」が以前から見知っていた夕陽丘女学校の水原という美しい少女に上手な投球ぶりを見せることができず、顔を合わせづらかったから。

イ　籠球部の指導選手の後について夕陽丘女学校へ行かなくなったのは、水原という美しい少女に籠球をすでに十分教えたから。

ウ　籠球部を創設した夕陽丘女学校から指導選手の派遣を依頼されたので行ってみたが、強豪に所属する「私」には、その後の呑気な話を受け入れられなかったから。

エ　籠球部の指導選手の派遣を依頼してきた夕陽丘女学校があった校門には、「青年塾堂」という看板があるばかりで、どこへ移転したのか分からず、探すのが面倒だったから。

**問三**　［B］に入る表現として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　私の記憶が昔と相も変らず非常に鮮明なせいであろう

イ　私の背丈がもう昔のままでなくなっているせいであろう

ウ　京都の町並みが寺も家も木も昔のまま残っているせいであろう

エ　大阪では見慣れた庭の木々に屋根が覆われているせいであろう

**問四**　――線②「日に二度も三度もその本屋へ足を運んだ」とあるが、この表現からどのような心情が読み取れるか。三十字以内で答えなさい。

**問五**　――線③「傾倒」・⑤「気前よく」の意味として最も適当なものを、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

③「傾倒」

ア　あることに興味を持ち、詳しく知っていること
イ　あることに敬意を払い、丁寧で礼儀正しいこと
ウ　あることに注目し、距離をつめて捉えること
エ　あることに強く心をひかれ、夢中になること

⑤「気前よく」

ア　金銭や物を惜しげもなく差し出して
イ　金銭や物をほんの少し出し惜しみして
ウ　金銭や物を丁寧に並べて見せて
エ　金銭や物を十分に準備しておいて

**問六**　C　に入る慣用句として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　烏（からす）の行水　　イ　狐（きつね）の嫁入り　　ウ　雀（すずめ）の涙　　エ　河童（かっぱ）の川流れ

**問七**　――線④「畳んだ傘の矢野という印が眼に止まり、ああ、あの矢野だったかと、私ははじめて想いだした」とあるが、「私」が思っている「あの矢野」の説明として適当でないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「私」は支払いの際に勘定が足りずに赤面することがしばしばあったが、怒りもせずいつでも支払いを待ってくれた。
イ　彼が経営する洋食屋では自慢のポークソテー以外の料理もみなおいしく、酢漬けのセロリーをただで食べさせてくれた。
ウ　矢野精養軒では、毎月新譜のレコードを購入しては学生好みの洋楽を名曲レコードで聞かせてくれた。
エ　コックの腕前に自信があったので学生に安くて美味いものを食べさせていたが、道楽の域を出ず結局店はつぶれた。

**問八**　――線⑥「自嘲的な口調になって」とあるが、それは主人がこれまでの商売についてどのように考えているからか。本文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。

**第二問題　次の文章は、作家安部公房がＳＦ（サイエンス・フィクション）小説について論じたものである。冒頭の「さいきん」というのは、およそ一九七〇年前後を指していると考えられる。以下に続く文章を読んで、後の問いに答えなさい。**

さいきん、ＳＦ小説の、静かなブームがおきているという。ＳＦというのは、サイエンス・フィクションの略であり、いわゆる空想科学小説のことであるわけだが、じっさいには、あまり科学とは関係のないファンタジー小説をまでふくめた、［A］の意味で使われる場合が多いようだ。

さて、このＳＦ小説の流行を、たとえば宇宙船の開発などで代表される、科学時代の反映だとみる人もいる。だが、同時に、つい数年前までは、宇宙時代の到来によって、ＳＦはその存在理由を失うだろうと、まことしやかに予言するものもいた。前者は、ＳＦ肯定論であり、後者は否定論であるわけだが、それでは現実は、はたして前者に注1軍配をあげたことになるのだろうか？

現象的にみれば、そう判断できないこともなさそうである。総体的にみて、注2戦後の科学の普及と日常化はめざましい。まず、原子爆弾によって幕があけられ、テレビの普及によってコミュニケーションが再編成され、電気せんたく機が家庭労働を簡易化し、注3エレクトロニクスが産業の自動化を促進し、そして宇宙旅行が現実的なプログラムになった。まさしく、科学時代といっても、言いすぎではないのである。ＳＦが、こうした時代背景のなかで、かえって流行のきざしを見せはじめたということは、たしかに科学の普及と、ＳＦの普及とが、［B］の関係にあることを物語っているように見られなくもない。

だが、反対論者が、このまま黙ってしまうわけではない。まだまだ言いぶんは残されている。反対者側の意見は、おおむね、次のようなものになるはずだ。

《反対意見》――なるほど、大衆が技術的成果には敏感に反応するということはあるかもしれない。家庭の電化は、注4燎原の火のように燃えひろがり、自動車の保有台数は加速度的に上昇し、トランジスター・ラジオは、すでに日用品の仲間入りさえしてしまった。しかしはたして、完全電化された注5家庭の主婦の何割が、注6交流と直流の区別をわきまえているだろうか？　ラジオ聴取者の何割が、注7短波と中波の差異を心得ているだろうか？　心もとないかぎりである。技術と、技術的成果とのあいだに



砂漠の思想
© 1970 安部公房
協力：Abe Kobo Official through Japan UNI Agency,Inc

は、すでに越えがたい断層が存在しているのだ。まして、技術的成果の享受と、①科学的思考方法とでは、その間に共通項を見つけだすさえ困難であろう。

いくら理論物理学に精通していても、それで自動車の運転ができるとはかぎらないし、また、ピタゴラスの定理一つ知らなくても、注8第二種運転免許の所有者になら、簡単になれるのである。一見科学的なよそおいをこらした、この新時代も、一枚裏を返せば、注9蒙昧なる中世といささかも変らないということだ。だから、SFの流行も、科学精神の普及の反映どころか、むしろ［C］の一方的氾濫によってますます深められた、非科学的混迷の反映とこそ見なすべきなのではあるまいか？　真に科学精神が確立されたあかつきには、②霧が太陽に追いはらわれるごとく、SFなどという疑似科学は、あっさり息の根をとめられてしまうに違いない。

③前者の、あまりにも注10経験主義的な主張とくらべると、後者のほうには、まだ一応論理らしいものがあり、このかぎりでは、やはり反対意見の側に分がありそうにも思われる。だが、公平を期すためには、もう一度、肯定論者の意見にも耳傾けてみる必要があるかもしれない。さきの反対陳述にいちばん渋い顔を見せているのは、どうやらSFの注11最右翼をもって任じている、SF注12リアリズム派とでもいうべきグループらしい。では次に、しばらくそのSFリアリズム派の見解を聞いてみることにしよう。

《賛成意見》――SFリアリズム派は、むろん、アメリカでもその勢力をのばしつつある。しかし、その代表選手は、やはりなんといっても、注13ソ連の作家たちであろう。ソ連ではさいきん、SF作家の注14シンポジウムが開かれて、「④正しい空想」についての、真剣な討論がくりかえされているという。これは、リアリズムSFへの熱意が、単なる思いつき以上のものであることの、はっきりとした証拠とみなしても差しつかえないのではあるまいか。よほどひねくれた者でもないかぎり、この事実を、ロケット工学で世界の主導権をにぎっているソ連の一般的な科学的関心の盛上がりと対応させることを拒むことは出来ないはずである。

現に、注15「コムソモリスカヤ・プラウダ」で編集された、『二十一世紀からのレポート』でも、「空想がなければ、未来に対する予測がなければ、科学は発達することができません。空想は必ず仮説に先行し、実験がその仮説を、科学的理論にまで推しすす



砂漠の思想
© 1970 安部公房
協力：Abe Kobo Official through Japan UNI Agency,Inc

めるのです」と、空想の意義をはっきりと強調しているではないか。

さてわたしたちは、この賛否両論の、はたしていずれに、くみすべきなのだろうか？

じつは、わたしとしては、困ったことに、そのいずれにもくみしえないでいるのである。というのは、この二つの意見は、一見対立しているように見えながら、よくよく考えてみると、けっきょくは注16一つ穴のムジナにすぎないものなのだ。両者ともに、まず疑似科学を否定しようという態度においては、完全な一致をみせている。

賛成論が、科学と文学の一致を夢みる楽観主義者であるのに対して、反対論が、それを否定する悲観主義だという違いはあっても、とにかく疑似科学を、すなわち注17荒唐無稽を、敵視するという点においては、いささかの相違もみとめられない。むしろ、疑似科学の精神こそ、SFをささえている大事な支柱だと考えているわたしには、どちらが勝とうと、それほど大した違いはないように思われるのだ。

だからといって、SFを単なる子どもだましの夢物語にしかすぎず、しいて論ずるに足らないなどといおうとしているわけでは、むろんない。それどころか、その荒唐無稽さにこそ、かえってSFの積極的な今日的意義があるとさえ、思っているくらいなのである。

つまり、科学という言葉に素朴にこだわっているかぎり、SFは観光地案内的なパノラマ地図から一歩も出ることは出来ないだろう。むしろ、科学からの断絶こそ、SFの前途に、ひろい展望と大きな可能性をあたえるのではないかと思うのである。

（安部公房『砂漠の思想』より）

注1　軍配をあげた　…相撲で行司が勝ち力士を軍配、つまり、うちわ型のもので示す動作を指している。すなわち、ここでは勝ち判定を下すという意味。

注2　戦後　…太平洋戦争後。つまり、戦争の終結した一九四五年以降の社会や時代を意味している。

注3　エレクトロニクス　…電子工学、あるいは、電子機器や電子技術に関連するものを指す言葉である。



砂漠の思想
© 1970 安部公房
協力：Abe Kobo Official through Japan UNI Agency,Inc

注4　燎原の火
…小さな火種が広大な草原を一気に燃やし尽くす様子から、物事が急速に広がり、大きな影響を及ぼすことを指す。

注5　家庭の主婦
…一九七〇年当時では、家事労働は女性が行うものという考えが強かったためにこのような呼称が用いられている。

注6　交流と直流
…電流の二つの基本的形態。

注7　短波と中波
…空間を伝わる電気エネルギーの波である電波のうち周波数がちがう二つの形態。

注8　第二種運転免許
…タクシーやバスなど、運転手が人を運ぶことを業務とする際に必要な免許。

注9　蒙昧なる中世
…蒙昧とは知識や理性が不十分であるために、物事の道理への理解が浅いことを指し、とりわけ中世、とくに合理的考えが未発達であったというイメージのあるヨーロッパ中世は蒙昧な時代とみなされていた。

注10　経験主義
…理論よりも自己の経験のほうを重視し、もっぱらそれによって物事を判断しようとする態度。

注11　最右翼
…ここでは競い合っているものの中で、最も有力なもの。

注12　リアリズム
…事物をありのままに写し出し、空想や理想化を排する芸術上の立場。

注13　ソ連
…ソビエト連邦の略。一九二二年から一九九一年までユーラシア大陸北部に存在した国家。

注14　シンポジウム
…シンポジウムのこと。討論会。

注15　「コムソモリスカヤ・プラウダ」
…一九二五年創刊のロシア語の日刊新聞。

注16　一つ穴のムジナ
…一見関係なく思えるものが、実は同類であることを意味する。

注17　荒唐無稽
…言動に根拠がなく、現実味のないこと。

**問一**　［A］に当てはまる最も適当な語を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　本当　　イ　虚偽（ぎ）　　ウ　狭義（きょう）　　エ　広義

**問二**　［B］に当てはまる最も適当な語を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　正比例　　イ　反比例　　ウ　たし算　　エ　ひき算

**問三**　――線①「科学的思考方法」とはどのような思考方法か。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　空想科学小説を多く読みこなし、その内容をすんなり理解できるような思考方法。

イ　テレビなどの新しい機器の普及や日常化に柔軟に適応できるような思考方法。

ウ　理論物理学に代表されるような物事の根本的法則性などを厳密に考えていく思考方法。

エ　自動車の構造よりも、実際にそれを運転することができるかなど行動を重視する思考方法。

**問四**　［C］に当てはまる最も適当な表現を、本文中から五字で抜き出して答えなさい。

**問五**　――線②「霧が太陽に追いはらわれるごとく」に用いられている表現技法として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　直喩（ゆ）　　イ　隠喩　　ウ　擬（ぎ）人法　　エ　体言止め

**問六**　――線③「前者」とはどのような人物を指しているか。「ＳＦ小説」という言葉を用いて十六字以上二十二字以内で答えなさい。

**問七**　――線④「正しい空想」とあるが、本文において言及されているそのあり方の一例を、本文中の言葉を用いて五十字以内で答えなさい。

**問八**　次の会話文は本文についての生徒たちの話し合いの様子である。次の会話文を読んで、後の問いに答えなさい。

《会話文》

生徒A：この文章は一九七〇年くらいに書かれたものだということだけれど、そのころにSFが流行したんだね。

生徒B：そのようだね。筆者の安部公房は当時のSFの流行を肯定的立場、否定的立場の両方から考えているみたいだ。

生徒C：ここでは、二つの立場から、とりわけSFと科学の関係性が議論されているね。

生徒A：安部公房自身の立場はどうなんだろう？

生徒B：［ I ］だろうね。本文の最後あたりを読めばそう判断することができるよ。

生徒C：安部公房は、この本文に続く箇所で、「日常性とは、言い変えれば、仮説をもたない認識だともいえるだろう。いや、仮説はあるのだが、現象的な事実と癒着（ゆちゃく）してしまって、すでにその機能を失ってしまっているのだ。そこに、あらたな仮説をもちこめば、日常性はたちまち安定を失って、異様な形相をとりはじめる。日常は活性化され、対象化されて、あなたの意識を強くゆさぶらずにはおかないはずである」と言っているけれど、その仮説をよりよく立てていくためには、科学という言葉に素朴にこだわるよりも、疑似科学的な精神や荒唐無稽さを大切にしたり、積極的にとりいれたりすることが大事だと考えているんだね。

生徒A：つまり、安部公房にとってもSFは無意味なものではないんだね。だからSFは［ II ］ではないと言って読者に注意をうながしているわけだ。

生徒B：安部公房にとってSFは科学を豊かにするというより現実社会をよりよくするものとして考えられているということだね。

（1）［ I ］に当てはまる表現として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　SF肯定論者に近い
イ　SF否定論者に近い
ウ　SF肯定論者、SF否定論者の双方に対して肯定的立場
エ　SF肯定論者、SF否定論者の双方に対して否定的立場

（2）［ II ］に当てはまる最も適当な表現を、本文中から十字で抜き出して答えなさい。

**第三問題　次の1～5の各文の――線をつけたカタカナを漢字に直しなさい。**

1　狭い道では自転車もジョコウ運転を心掛けよう。
2　バラのホウコウが周囲に漂っている。
3　博物館で船のモケイを見る。
4　山の中にある湖の水は美しくスんでいた。
5　本のヘンキャクを忘れずに行う。

令和八年度

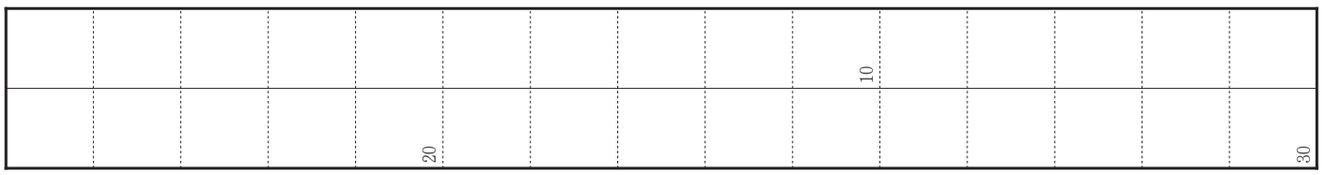
# 高等学校推薦入学試験問題　〔国語〕

## 解答欄

### 第一問題

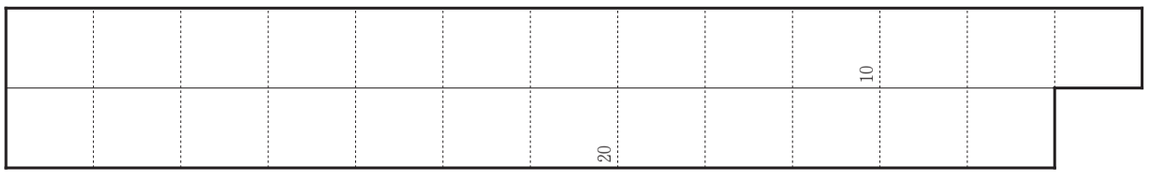
問一 □　問二 □　問三 □

問四




問五 ③ □　⑤ □　問六 □　問七 □

問八

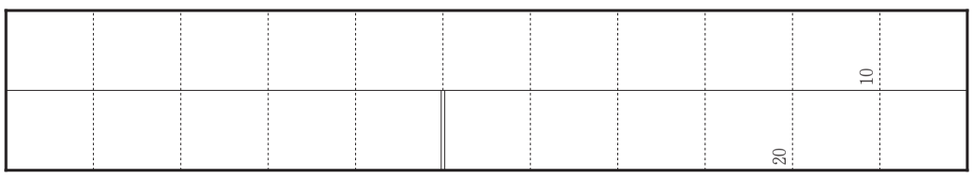



### 第二問題

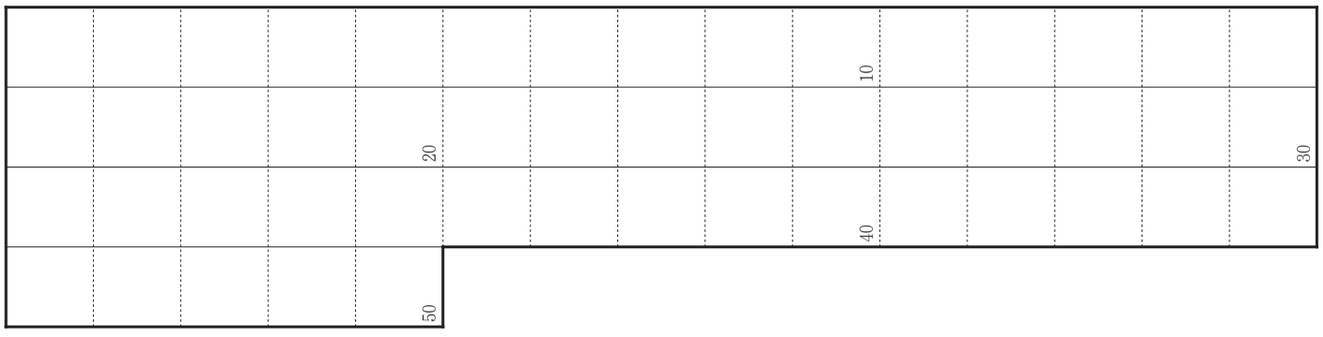
問一 □　問二 □　問三 □

問四 □　問五 □

問六




問七




問八 （1） □　（2）

### 第三問題

1 □　2 □　3 □

4 □　5 □

| 受験番号 | | 名前 | | 得点 | ※ | 推国 |
|---|---|---|---|---|---|---|

※印欄は記入しないこと